

防災備蓄 全国各地で進行中

備蓄倉庫で拠点確立へ

大分県佐伯市では、広域防災拠点基本構想に基づき、計画的に防災倉庫への備蓄品配備を行う。
(佐伯市へ配備された「みんなでトイレ」)



2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震と、日本各地で地震活動が活発化する中、南海トラフ地震、富士山の火山活動の影響など、今後も様々な災害の発生が懸念されています。

東日本大震災の後に、多くの自治体様ではその経験を活かして、「避難所の有り方」について検討が進んでいる様です。中でも「子供や女性が安心して避難できる場」を築く事に注力し、必要性を掲げている自治体様が数多く見受けられます。その為には、「プライバシーの確保」が一番の検討材料として挙がってきます。

避難生活を考える上で、多様の備蓄品や対策が必要ですが、先に述べた通り「プライバシーの確保」は最も優先すべき対策と言えます。そして、震災後の停電や断水により、まず直面するのが「水洗トイレが使えない」という事です。

特に仮設トイレは、男女が同じトイレを使用するなど、プライバシーへの配慮が難しい物でした。「みんなでトイレ」は、仮設トイレの常識をくつがえし、プライバシーをしっかりと確保し、女性や障害者の方が安心して、かつ衛生的に使用する事が出来る、唯一の仮設トイレです。

多くの自治体様が製品にご納得頂き、全国各地で備蓄が進んでおります。備えあれば憂いなし、事前の準備がいざという時に、役に立つものです。

防災の日 各地で備え、真剣に

読売新聞 2016年9月2日

成田空港では、マグニチュード7.3の直下地震を想定した訓練が行われ、成田国際空港会社(MIA)の社員や県警、旅客ターミナルビルのテナント従業員ら約1900人が参加した。

今回は非常用トイレテントを設置する作業を初めて実施。大規模な災害時は断水や停電で水洗トイレが使えなくなる恐れがあるため、MIAは昨年、7つの個室を備えたテントを2基購入。

MIA保安警備担当のマネージャーは、「防災力を向上させたい」と気を引き締めていた。

備蓄用として購入した資材を実際の防災訓練で使用し、いざという時に、活用できる様

防災訓練で災害に備える



成田国際空港 防災訓練風景

に準備しておく事が大切です。「みんなでトイレ」は、工具や重機を使わず、人力で設置が可能な商品です。設置場所を

問いませんので、液状化現象など地盤に問題が起きてても、使用に問題は有りません。



横浜市消防局 防災訓練風景



東京都大田区 防災訓練風景

防災訓練は、自治体にとって地元住民の方々へのアピールの場となります。「みんなでトイレ・女性用」を見て頂いた住民の方々は、安心感、清潔感を感じて頂き、「このトイレであれば、自分や子供達も安心して使用する出来る」というお話を頂きました。

績 実 入 納

- 横浜市消防局 港区役所
- 東京駅八重洲地下街 我孫子市役所
- 浦安市役所
- 佐伯市役所
- 富士宮市役所
- 大田区特別支援学校
- 甲斐市役所
- 成田国際空港
- 一般企業様 多数
- 老人ホーム様 多数
- 他 (順不同・敬称略)

途上国への支援物資にも

海を越えてマーシャル諸島・グアテマラ共和国へ

一般財団法人日本国際協力システム(JICS)の平成26年度・防災機材ノン・プロジェクト無償支援」でマーシャル諸島へ、平成24年度・中小企業ノン・プロジェクト無償資金協力」でグアテマラ共和国へ、みんなでトイレ、シャワートントプー入が納品されました。

○中小企業ノン・プロジェクト無償
：日本政府の資金供与により、日本の中小企業が製造した製品を調達する事業です。
○防災機材ノン・プロジェクト無償
：日本政府の資金供与により、日本の優れた防災機材を自然災害に脆弱な国に対して調達し、防災能力の向上を図ることを目的とする事業です。

